



村田 耕一
(公明)



粗大ごみ持ち込みの際の待ち時間短縮を

清掃センターに粗大ごみを持ち込む場合、混雑時は相当の待ち時間が発生している。予約制にして待ち時間解消が図れないか。

予約制については、待ち時間の解消に大変有効な手段であると考え。実施に当たっては、予約制開始の周知やシステムの開発など課題はあるが、既に実施している県内他市町を参考に、毎月第1日曜日の粗大ごみ受入日の予約制の導入について検討していく。



谷田幸原線徳倉工区の巻町田交差点から市道幸原富士ビレッジ線までの早期の供用開始を求めるがいつになるか。

事業効果を早期発現するため、令和5年度末までに西側の2車線で暫定供用を開始することを計画している。なお、当該工区の完成は、令和7年度を目途としているが、次期工区である徳倉第2工区が供用開始するまでは、2車線での供用となる予定である。



岡田 美喜子
(新未来21)



子育て世帯の孤立防止の支援策

あかちゃんのへやの設置について、拡充とともに衛生面を考慮して市役所本館等の多目的トイレから独立した設置にできないか。

授乳やおむつ替えができるあかちゃんのへやは三島市独自の事業として事業者のご協力により設置を進めている。公的機関に設置するあかちゃんのへやの衛生環境改善については、市役所本館1階フロアにある多目的トイレから独立したスペースの確保について、前向きに検討をしている。



外国人の子どものための就学支援の充実

外国人が住民登録に訪れた際の就学案内など、外国人の子どもの就学機会の促進についてどのような取り組みを行っているか。

外国人が住民登録をした際に、就学希望の有無にかかわらず、学校教育課へ案内し、学習状況や日本語の理解度、中学校卒業後の進路希望、家庭状況などを個別に聞き取り、就学予定校へ伝えるとともに必要な配慮をするよう依頼し、学校との橋渡しを行っている。



古長谷 稔
(無党派)



市民に寄り添った行政サービス新体制の構築

実現に向けたロードマップ作りが必要。市民合意を得るべく、職員に加え専門家や市民が集まり、考える場を作ってはどうか。

令和4年度中に、環境や交通などを担当する部署が横断的に連携して取り組む「スマートシティ推進部会」を構築し、令和5年度は、アイデアソンやハッカソンを実施して市民との意見交流の場を創出し、市民が幸せになれるサービスを検討する。

※1アイデアソンとは…アイデアを出し合い、新たな発想を創出する取り組み。
※2ハッカソンとは…ソフトウェア開発の関係者が集まり、短時間で集中的に開発作業を行うイベント。

三島市沢地の違法盛り土の危険性(再質問)

県の調査結果は令和5年度中に出るといっているが、その間、盛り土崩壊の予兆を感じし、避難誘導等につなげ、災害を防げる対策は何かないのか。

今後、パトロールや県の調査で設置するひずみ計の観測データ、ボーリング孔の変位などにより、万が一、盛り土が危険な状態である場合には、県の調査結果を待たずに、応急対策を県と協議するとともに、周辺住民への注意喚起をしていく。



杉澤 正人
(無党派)



向山古墳群の国史跡指定への整備進捗状況

向山古墳群の国史跡指定へ向けた整備の進捗状況を伺う。

新型コロナウイルス感染症により発掘調査の実施や市教育委員会の開催に影響が出て遅延が生じている。一方、古墳群に関する講演会の開催、小学校への出張授業で古墳の話をする等、市民への啓発を地道に図り、国史跡指定への準備を着実に進めている。



青少年相談室・ふれあい教室の活動状況

北上公民館、中郷公民館での訪問相談の実態、現状、効果を伺う。

令和2年度から両公民館に分室を設置し、相談者に身近な場所で相談業務を行えるようにした。これまで友達の目が気になり、相談ができなかった児童生徒が、訪問相談の開始により相談につながったケースもあり、支援体制の充実が図られたものと考えている。

他の質問事項

コロナ禍の影響によるいじめ・不登校問題



河野 月江
(日本共産党議員団)



三島駅南口東街区再開発事業での権利変換計画への同意

市有地の従前資産額に何重にも疑念が残ることを踏まえ、市は同意前に従前資産額の検証と市民に説明責任を果たすことが必要では。

事業協力者募集時の従前資産額は専門家の意見を踏まえ設定しており、今後、市でも独自に検証することを検討している。市民には、権利変換を含め事業の進捗状況をお伝えするとともに、権利変換計画の同意の前には市民の代表である市議会への説明を予定している。



市内小学校における通学用かばんについて

ランドセルに限らず軽量で安価な通学用かばんの使用を児童・保護者が選択しやすくするために、教育委員会や学校ができる方策を伺う。

教育委員会や学校では通学かばんの購入に関する案内をしていないが、新1年生の保護者向けに実施している入学説明会において、登下校中の児童の安全を確保するために、児童が背負えるもので、両手の空くものがよいことなどについて、今後も丁寧に伝えていく。



土屋 利絵
(改革みしま)



不登校の子どもたちに向き合っていくために

令和5年度から中学校に設置される予定の不登校支援室を、子どもたちが訪れやすいものにしていくための考え方を伺う。

生徒一人一人が学習に集中できるようパーティションを設置したり、気軽に座れるソファを置いたりするなど、生徒が心を落ち着かせて過ごせる場所となるように努める。その中で、生徒一人一人のニーズに寄り添ったきめ細かな支援を行っていく。

箱根の木を使った積み木づくり

箱根の木を間伐し大切に使うべくアイデアが必要。箱根の木で積み木を作り、生まれた子どもたちに贈るのはどうか伺う。

このような新たな事業の開始に向けて、製作工程の確立、大きさや形の決定など様々な調整に時間を要する。また、森林環境譲与税の執行率が高い状況にあり安定的な製作費用の確保も課題であることから、譲与額の増額が見込まれる令和6年度に向けて事業化を検討していく。



他の質問事項

箱根の自然を大切にしながら発展させていくために